

人も自然も共に生きる

ESD×生物多様性しんぶん

2010年秋号

インドネシアの農村風景 photo: 野口祥子

このニュースレターは、ESD-Jが取り組む「ESD×生物多様性」プロジェクトのプロセスや成果をお伝えするために、年4回発行しています。

「ESD×生物多様性」プロジェクト、COP10で発信します

いよいよ名古屋で生物多様性条約第10回締約国会議（CBD/COP10）が開催されます。今号では、ESD-Jがこれまでの取り組みをCOP10でどう発信していくか、さらにCOP10本会議や公式サイドイベント、生物多様性交流フェア等での、ESDの視点からの見どころを紹介します。（COP10の全体像は裏面をご覧ください）

生物多様性交流フェアで出展（10月11～29日 名古屋市白鳥会場）

生物多様性を大切にしたい社会を作るためには、地域の自然やその風土に基づく暮らしの知恵、その上に発展してきた地域独自の文化を大切に思える人を増やしていくこと、そしてそんな人々と共によりよい地域をつくっていくことが大切です。「ESD×生物多様性」プロジェクトでは、どのような働きかけや活動のプロセスをつくれば、このような変化を生み出すことができるのかを、1年間かけて探ってきました。そして、

地域を見る・知る・学ぶ

- ・地域の“本当”を調査する
- ・地域・世代・立場を越えて学びあう

対話と協働で、地域をつくる

- ・みんなの“できる”を積み重ねる

・対話と協働の仕組みをつくる
といったアプローチが効果を生んでいることを学びました。これらのアプローチは単発で終わることなく、地域の中で状況に応じて積み重ねられ、地域の中に新しい価値観や誇りを生み出しています。そして、そのような活動を、地域内外の人々や組織とつながりながら組み立てていくコーディネーターの重要性もあらためて確認されました。

COP10では生物多様性交流フェアに展示出展し、このようなアプローチ方法の有効性を、生物多様性保全を推進するNGOや行政、関係機関などにアピールすべく、パンフレットを作成・配布します。

また、アジア実践事例交流事業（AGEPP）

のメンバーと共に作成した、国際社会に向けたアピール文書も配布します。なお、このアピールをまとめるために8月1～4日にインドネシアのスラバヤで開催した国際ワークショップの様子は、ESD-Jのウェブサイトからご覧いただけます。



スラバヤワークショップ - 現場を感じながらアジアのESDに大切な点を議論し、提言を作成

参加者募集! 「ESD×生物多様性」 COP10セミナー開催

生物多様性を大切にしたい社会づくりを可能にするために ～ESDの10年と生物多様性10年のシナジーを探る～

COP10では、CBD市民ネットの発案で、日本政府から国際社会に向けて「生物多様性の10年」（2011-2020）が提案されます。そしてこの提案の柱として、CEPA（セパ）が重要なキーワードになっています。CEPAとは、コミュニケーション、教育（Education）、普及啓発（Public Awareness）の略ですが、Pには参加（Participation）の意味も含まれているという解釈もあり、ESDと非常に重なった概念と言えます。

そこでESD-Jでは、ESDの10年（2005-2014）のこれまでの経験や蓄積を生かしながら、生物多様性の10年をより効果的に展開していく方法について、COP10に参加する国内外の関係者達とともに探る場として、セミナーを開催します。アジアからはAGEPPプロジェクトのメンバー、エリザベス・ロハス（フィリピン）さんが参加。アジアからのアピールを紹介していただきます。

日時:2010年10月19日(火)13:30-17:30

場所:名古屋学院大学体育館1階 小会場2 (生物多様性交流フェア会場内)

参加費:無料 / 定員:60名 / 同時通訳付き

内容(予定)

- ・情報共有
「CEPAとは何か? ESDとは何か?」
- ・パネルディスカッション
「生物多様性の10年とCEPAをどうすすめるか」
- ・生物多様性を促進するESDの事例
北海道オホーツク紋別、鹿児島県重富干潟から
- ・グループディスカッション
「生物多様性を大切にしたい地域づくりのために何をすべきか」

主催:ESD-J / 共催:EPO中部 / 協力:EPO九州

お申し込み:お名前(ふりがな)、ご所属、メールアドレス、一言自己紹介(50文字以下)、当日期待することを記入し、e-mail (seminar@esd-j.org)もしくはFAXにて、ESD-J までお送りください。

はじまる! COP10 見どころ紹介.....

10月11日より、愛知県の名古屋国際会議場で、生物多様性条約に基づくカルタヘナ議定書第5回締結国会議(MOP5)(11~15日)、そしてCOP10(18~29日)が開催されます。COP10の期間中、本会議場で会議のほか、同会場での公式サイドイベント、会場外の生物多様性交流フェアでのNGOを中心とした展示・イベント、愛知県外でのイベントなどが多数開催。ここでは、地域づくりや教育など特にESDに関連する議論・イベントを紹介します。



COP10会場全景 (資料:COP10支援実行委員会)

●COP10 本会議

本会議では、地域づくり・人づくりに関し、以下の議論がされます。

19日 議題5.5 生物多様性の持続可能な利用

20日 議題4.8 コミュニケーション、教育、普及啓発(CEPA)と国際生物多様性年

21日 議題4.9 他の国際協定や国際組織やイニシアチブとの協力、利害関係者の巻き込み

22日 議題6.8 第8条(j)項および関連条項

特に、20日CEPAの議論の前日、ESD-JはESDとCEPAに関連したフォーラムを開催(表面参照)。日程が連続したのは偶然ですが、ESD-Jでは、フォーラムの成果を翌日の本会議で議論への貢献につなげていければよいと考えています。

なお、本会議には、条約締結国からの代表者および参加者と認められたNGOなどが議論に参加します。その他の方は傍聴者として参加することができますが、登録手続きが必要となります(事前登録は9月30日締め切り)。会議期間中も、必要書類を持参すれば会議場で登録ができるようです(詳しくはCBD事務局のサイト参照www.cbd.int)。

●公式サイドイベント

COP10中、347の公式サイドイベントが開催されます。持続可能な農業・漁業・森林業、ジェンダー、先住民族、ミレニアム開発目標(MDGs)、企業の取り組みや、経済・政策メカニズムなどに関する多様な議論を、国連、政府、NGOが企画。(詳細はCBD事務局ウェブサイト参照)。そして、ここでもESDがテーマのイベントが開催されます。なお、公式サイドイベントの参加にも、本会議への傍聴登録が必要です。

26日 ユネスコMAB(人間と生物圏)プログラム、ESDと日本の取り組み(主催:文科省、共催:横浜国立大学、ESD-J)

ESD-J理事の鈴木克徳、ESD-J団体会員のNPO法人

ECOPLUSより高野孝子さん(代表理事)がパネリストとして参加。地域でのESDの取り組みをベースにしたMABへの期待などを交えつつ、ユネスコMAB担当者らと、ESDとMABの連携について議論。

25日 ESDと生物多様性-ESDは生物多様性条約にどのように貢献できるのか? RCEが、生物多様性条約の目的にどう貢献できるのか?(主催:国連大学)

国連機関間ESD委員会の国連大、ユネスコ、国連人間居住計画がESDの取り組みを紹介するほか、生物多様性に関連したRCEの取り組みを紹介します。

●生物多様性交流フェアでのイベント

生物多様性交流フェアにある名古屋学院大学の会場でも、多様なテーマに取り組むCBD市民ネットの各作業部会やNGOが、連日イベントを開催。参加には、本会議への登録も必要なく、誰もが参加できます!(詳細はCBD市民ネットウェブサイト参照www.cbdnet.jp)。中でも下記は、地域づくり・人づくりがテーマのイベントです。

26日 What is CEPA?(主催:CBD市民ネット普及啓発作業部会)

「CEPAとは」そして「ESDとのつながり」について、普及啓発作業部会長の川廷昌弘さんと、ESD-J顧問の阿部治がレクチャーをするほか、メディア、生産、自然保護の現場や、政府のCEPAの取り組みを紹介。

27日 アジア生命流域における生物多様性と住民・NGOの役割(仮)(主催:名古屋NGOセンター)

ラオス、インド、ネパール、日本の生命流域において、湿地や森に暮らす人々に寄り添って活動するNGOが、自然資源とのかかわりの中で暮らす住民の取り組みやNGOの支援活動の報告を聞き、生物多様性保全において住民とNGOが果たす役割について議論します。

●その他

東京でも、ESD×生物多様性に関するイベントが開催されます。

23日 生物多様性COP10国際シンポジウム「貧困削減と途上国の生態系保全」(仮)(主催:環境省 実施:JANIC)

於:女性と仕事の未来館 時間:14:30-18:30

参加費:無料(定員:200名)

途上国で生物多様性を保全し、住民主体で持続可能な地域づくりをするには? 貧困層や先住民族の権利をまもるNGOや市民社会の役割とは? 途上国で地域づくりを行う海外ゲストとともに考えます。

問合せ:JANIC 宮下・伊藤 Tel: 03-5292-2911



発行:認定NPO法人「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議(ESD-J)

編集:ESD-J地域プロジェクトチーム <http://www.esd-j.org> e-mail: admin@esd-j.org

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-67 コスモス青山B2F TEL: 03-3797-7227 FAX: 03-6277-7554



この印刷物は、平成22年度地球環境基金の助成を受けて制作されています。

レイアウト:宮部浩司